

JAIST NOW No.25

目次
JAIST NOW No.25

特集1 教えてURA

「JAISTの研究、何がすごい？」

— “目利き”のプロが語る、いま注目の研究 —

特集2 教員インタビュー

「JAISTで育ち、JAISTの未来をつくる立場へ」

栗澤研究科長

06— JAIST HOT NEWS

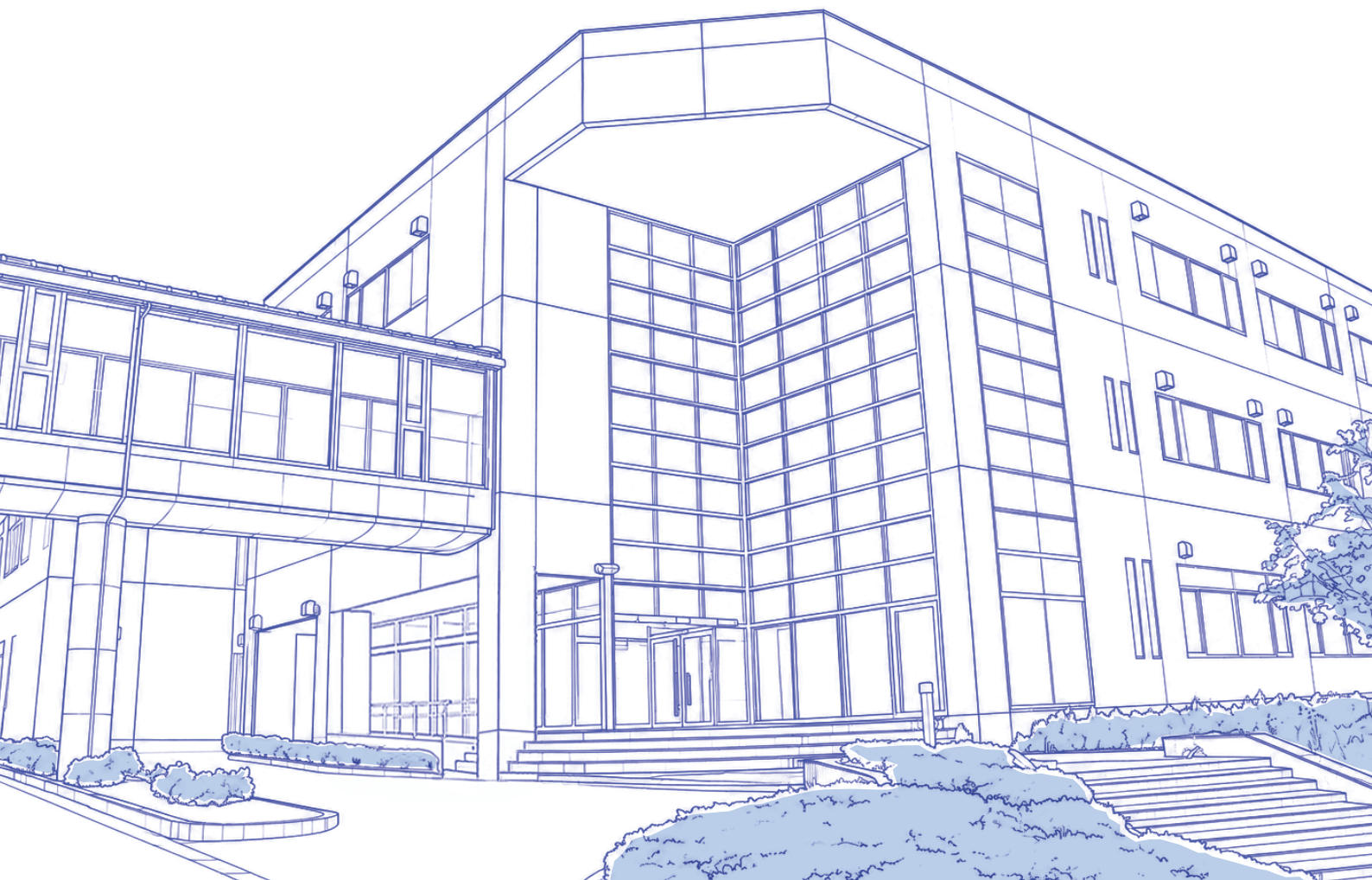
08— JAIST PRESS TOPICS

09— 受賞者紹介

10— JAIST同窓会

11— 活躍する修了生

12— JAIST INFORMATION



JAISTの研究、 何がすごい？

安田URA



URAが考える「いま注目の研究テーマ」。JAISTの研究の中で、いま注目だと思う研究テーマをお教えてください。

現在多くの注目を集めている研究分野の一つにバイオメディカル分野があります。世の中で医工連携が掲唱されて久しいですが、近年の多様で急速な医療の進展に伴って、生体に適合する新しい材料（バイオマテリアル）や生体の仕組みを工学的に活用する技術（バイオエンジニアリング）を新たな医療や医薬品を実現する取り組みが非常に活発になっています。

JAISTではこの社会ニーズに資するべく、バイオマテリアル分野とデータサイエンスの融合による新たな研究・産業創出を牽引する重点拠点として『超越バイオメディカルDX研究拠点』を設置し、医療系大学や企業と次世代医療の実現に向けた研究開発を推進しています。具体的には、『機能性高分子材料による生体組織・細胞の機能制御』『緑茶カテキン誘導体を用いたナノ粒子形成技術』『超高速遺伝子光編集技術』等を用いて医療・医薬・検査診断などの分野で研究開発が推進されています。



安田 知一 YASUDA Tomokazu

先端国際・社会変革推進本部
(兼務)未来創造イノベーション推進本部 特任教授／
リサーチアドミニストレーター(URA)

安田URA



JAISTの研究の強みは何だと感じていますか。また、新しい研究や連携が生まれる背景には、どのようなものがありますか。

JAISTの研究の最大の強みは「最先端であること」だと感じています。他の研究機関では見られない先進的でオリジナリティ高い研究が数多く実施されています。これらの研究は、多くが特定の製品やシステム等の出口を志向したものではなく、新たな研究や開発を推進するための基盤技術として利用価値が高いことも大きな特徴です。こうして、日々基礎研究から社会実装につながる種を生み出していると言えます。



新たな研究・連携の多くは、異分野との融合で互いの強みや課題を認識することによってきっかけに生まれることが多いと感じています。未来創造イノベーション推進本部では、Matching HUBを核として、研究者、企業、自治体、金融機関などが分野を超えて交流する機会を創出しています。URAはその橋渡し役として、相互の課題や強みを結び付け、新たな研究テーマや共創プロジェクトにつなげています。

Pros Sav

“目利き”のプロが語る、いま注目の研究

大学の研究は、専門的で分かりにくい。そう感じる方も少なくないかもしれません。

JAISTには、研究を横断的に見つめ、その価値を社会へとつなぐ専門家、リサーチ・アドミニストレータ（URA）がいます。URAは日々、多くの企業訪問にて現場の声を聴きながら、どの研究が社会につながる可能性を持つのか等を見極めていきます。

本特集では、そんな“研究の目利き”のプロ集団のうち、安田URA、森URA、の2名にお聞きし、JAISTのいま注目すべき研究とその魅力、JAISTの研究のすごさに迫ります。

森URA



大学のシーズと企業のニーズが結びついた事例について教えてください。

私たちの生活に関わる身近な事例としては、本学の上原隆平教授と鎌田斗南助教が、石塚王子ペーパーパッケージング株式会社と共同開発した、新発想の紙製カプセル容器「バックボン」がいま面白い展開を見せています。近年急速に市場拡大するカプセルトイに着目して、牛乳パックの再資源化素材を原料にした環境配慮型の紙容器の形状設計を上原研究室が担当しました。紙1枚の平らな展開図から、ハサミや接着剤を使わずに立体的な球体カプセルへと組み上げることができます。上原研究室が持つ高度な数理的折り紙技術やパズルの知見が、この精密な3次元設計に活かされています。

バックボンは日常の「包む」という役割に、折り紙や数理アルゴリズムのエッセンスが融合した非常にユニークな取り組みであり、サステナブルなプロダクトとして引き合いが多く、今後の展開が期待されています。



森URA



大学のシーズと企業のニーズをつなぐうえで、重要にしているポイントをお教えてください。

本学の未来創造イノベーション推進本部に所属するURAは、企業や公的機関などで培った豊富な実務経験と高度な専門性



を活かし、産学官連携の推進に取り組んでいます。単なるシーズとニーズの橋渡しにとどまらず、社会課題の本質を見据えながら、未来社会の新たな価値創造や事業・産業の創出を目指しています。その実現のため、一見すると先端技術や高度な知見を必要としないように見えるニーズに対しても丁寧に耳を傾け、内容をURA全員で多角的に分析します。そして、あらゆる可能性を排除することなく、本質的なニーズを把握することを重視しています。“バックボン”はそのような姿勢から生まれた事例だと思っています。

森 進太郎 MORI Shintarou

未来創造イノベーション推進本部
研究員／
主任リサーチアドミニストレーター（Chief URA）



JAISTで育ち、 JAISTの未来をつくる立場へ

Kurisawa Motoichi

JAISTの創設から間もない時期に、材料科学研究科の第1期生として学び、博士号を取得した栗澤教授。修了後は国内外で研究者として経験を重ね、シンガポール科学技術研究庁(A*STAR)では18年間にわたり研究室を主宰しました。2021年、研究者としての原点であるJAISTに

教授として戻り、現在は研究科長・副学長として、教育・研究と大学運営を担っています。

かつて自身を育てた場所で、今度は次世代の研究者を育てる立場となった栗澤教授。JAISTでの学びや海外で培った視点を、現在の教育や大学運営にどのように生かし、JAISTの未来をどのように描いているのでしょうか。

本企画では、学生時代から現在に至るまでの歩み、研究科長として目指す大学院教育と研究の姿、そして生体材料科学を基盤とする先端研究と、その成果を医療へつなげる社会実装への挑戦について紹介します。



栗澤元一先生に 一問一答！

- 1 研究に行き詰まったときの対処法は
楽観的なので、行き詰まりに気づかない
- 2 若い頃の自分に一言アドバイスするなら
文句を言う前に、動け
- 3 JAISTで1番お気に入りの場所
自分の居室。あとは宮竹から続く道(紅葉が最高)
- 4 研究以外で大切にしている時間
学生や同僚との、少し長めの懇親会
- 5 JAISTらしさを一言で表すと
型にはまらないところ
- 6 好きな言葉／研究者としての信条
人間万事、塞翁が馬。
研究と人との出会いに育てられてきたことを忘れない。

栗澤 元一

KURISAWA Motoichi
後眼疾患の標準療法
パラダイムシフト

先端科学技術研究科長・副学長・教授
北陸先端科学技術大学院大学
1998年3月博士後期課程修了
博士(材料科学)

シンガポール科学技術研究庁(A*STAR)に18年間在籍し、Principal Investigatorとして研究室を主宰。2021年、かつて大学院生として研鑽を積んだJAISTに教授として着任した。専門は生体材料科学。現在は、緑茶カテキンの生理活性を活用し、薬を患部へ運びとともに治療効果も発揮するナノ粒子の開発に取り組んでいる。また、体内に注入した後にゲル化するハイドロゲルを用いた組織修復や再生医療の研究にも取り組んでいる。米国ボストンの研究者らと複数のスタートアップを共同で設立するなど、企業との共同研究や起業を通じて、ナノ医療および再生医療技術の社会実装を推進している。



Q AIISTで学ばれていた当時の印象や、学生時代のエピソードを教えてください。

私がJAISTで学んだのは、大学が創設されて間もない頃で、材料科学研究科の第1期生として入学しました。新しい大学院を自分たちも一緒につくっていくような熱気があり、教員と学生の関係も、今では考えにくいほど濃密でした。研究室では午前9時から深夜までが事実上のコアタイムで、先生方は研究だけでなく、日々の生活や将来のことまで、家族以上に親身になって接してくれました。私は決して模範的な学生ではなく、実験結果の解釈や研究の進め方、さらには生活態度についても、身がすくむほど厳しく問われることがありました。当時は、頭で考えたことを実験や行動に結び付けることができず、吐きそうになるほど苦しみながら論理的思考を鍛えられました。そこで培ったのは、物事を筋道立てて考える力と、考えるだけで終わらず、やると決めたからには徹底して実行し、最後までやり抜く姿勢です。同時に、すべてに手を出すのではなく、本当に重要なことを見極め、やらないことを決める大切さも学びました。それは研究に限らず、人生に向き合う上での価値観の原点となっています。



教員として本学に戻り、さらに研究科長に就任された今、どのような思いがありますか。

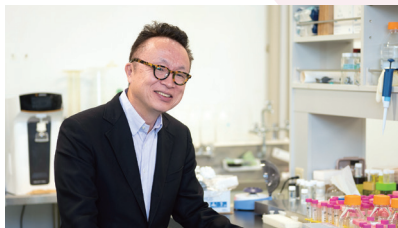
教員としてJAISTに戻ったときは、懐かしさとともに、大きな責任を感じました。かつて自分が学び、先生方に育てていただいた場所、今度は学生や若手研究者を育てる側になったからです。研究科長・副学長となった今は、自分自身が研究成果を出すことだけでなく、次の世代が自由に挑戦し、成果を生み出せる土壌をどう残していくかを、以前より強く考えるようになりました。

JAISTは創立からまだ35年余り。長い歴史を持つ国内外の大学や研究機関と比べれば、大学としてはまだ“若手”です。思い返すと、創設期の私たち学生も教職員も、強い思いと努力があれば、JAISTは日本初の国立大学院大学として、短期間で基盤と存在感を築けると考えていたのではないのでしょうか。しかし今、大学運営に関わる立場になってみると、教育や研究、人とのつながりの積み重ねが、大学としての確かな伝統や価値観になるには、もう少し時間が必要だと



感じます。歴史のある大学や研究機関を見るほど、そうした積み重ねの大切さを実感します。

だからこそ今は、目先の成果を急ぐのではなく、学生と教職員が一体となり、JAISTの教育や研究を地域や社会の中へ深く根づかせていくことが大切だと考えています。そこから新しい人材や技術、産業が生まれ、地域や社会と大学がともに発展していく。そうした活動を着実に積み重ねた先に、JAISTならではの個性と存在感が形づくられ、国内外の優れた研究機関に伍する力も備わってくるのだと思います。地域や社会から「JAISTと一緒に何かを始めたい」と思ってもらえる、そんな大学を次の世代へつないでいきたいと考えています。



Q 専門分野や研究テーマ、その分野に興味を持たれたきっかけを教えてください。

専門は生体材料学で、現在は緑茶カテキンを利用したナノ粒子型ドラッグデリバリーシステムと、体内への注入後にゲル化するハイドロゲルを研究しています。ナノ粒子では、薬を運ぶ機能に加え、カテキンが持つ抗酸化・抗がん・抗血管新生作用を生かし、薬との相乗的な治療効果を引き出すことを目指しています。ハイドロゲルは、薬物の長期徐放や損傷した組織の修復、再生医療への応用を進めています。この分野を自分の研究の軸にすると決めたのは、大学院生の頃です。

当時は、概念実証を中心とした基礎研究で、それが実際に何の役に立つのか、自分自身にも明確には見えていませんでした。先生方や博士論文の審査委員からも、「それは本当に人の役に立つ研究なのか」と厳しく問われました。その言葉をきっかけに、材料をつくるだけで終わらず、材料科学によって病気を治すところまで挑戦したいと考えようになりました。今振り返ると、あのとき厳しく問われたことが、その後の研究者人生の方向を決めてくれたのだと思います。競争の厳しいA*STARでは、研究プロジェクトをゼロから立ち上げました。その際にも、「人の役に立つところまでつなげられる研究なのか」という問いを持ち続けたことが、自分なりの研究の軸となり、成果を生み出すことにつながったと感じています。実際の治療につながる研究を生み出すのは、決して簡単ではありません。それでも、材料科学だからこそ、これまでにない治療を生み出せるかもしれない。その思いは今も変わっていません。そして今では、当時厳しく問いかけくださった博士論文の審査委員の先生方に、心から感謝しています。



研 究科長として、どのような研究科を目指していますか。また、その実現に向けてどのような取組を進めていきたいとお考えですか。

研究科長として大切にしたいのは、教育でも研究でも、いつも何か新しい挑戦が動いていることです。ただ、新しいことを始めるだけでよいとは思っていません。始めた取組が本当に意味のあるものになっているのか、進捗を見ながら絶えず問い直すことも大切です。うまくいかなければ方向を変え、場合によっては一区切りをつけ、その経験を次の挑戦に生かす。そうした挑戦と検証を柔軟に繰り返せる研究科でありたいと思っています。

JAISTには、知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスという、研究対象もアプローチも大きく異なる分野が一つの研究科に集まっています。これほど異なる分野が同じ組織の中にあることは、世界的に見ても珍しいのではないのでしょうか。昨今は、アカデミアにも「破壊的イノベーションを生み出せ」と、半ば当然のように求められる時代です。もちろん、そう簡単に生み出せるものではなく、私たち研究者にとってもなかなか大変な要求です。しかしJAISTは、そのための素地が、すでにあります。大切なのは、この強みを本当に生かせるかどうかです。分野を超えた研究を国内外の大学、企業、公的研究機関との連携や社会実装、スタートアップの創出へとつなげていく。そうした挑戦を積み重ねた先に、「JAISTでなければ生まれない」と言われる教育や研究が育ち、国内外から意欲ある学生や研究者が自然と集まってくる。気が付けば、そんな研究科になっている。それが私の理想です。



学 内の教職員・学生・修了生、そして学外へのメッセージをお願いします。

サッカーのワールドカップを見ながら、なぜ世代を問わず、あれほど多くの人がついて、熱狂できるのだらうかと思いました。JAISTにも、学生をいかに意味で巻き込み、気がつけば本気になっているような仕掛けをつくれないうらやまがあります。今の時代、教育は本当に難しく、一方的に教えたり、挑戦を促したりするだけでは、なかなか人の心は動きません。だからこそ、学生、教職員、修了生、地域の皆さんと一緒に、ときには少しばかり見えることにも、本気の熱量で取り組める文化が大切です。大学は企業とは少し違って、挑戦し、たとえ失敗しても、それを次の学びに変えられる場所だと思います。成功しなくても、その経験は次の世代に手渡せます。JAISTを、誰もが夢中になり、新しい挑戦が次々と生まれる場所にしていきたいと思っています。

2026年1月から6月までのニュース！

JAIIST HOT NEWS



<https://www.jaist.ac.jp/whatsnew/info/>

1 令和7年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」を開催



2月13日、令和7年度「産業界等の有識者と学長との懇談会」をANAクラウンホテルブ

ラザ金沢で開催し、インダストリアルアドバイザーにご就任いただいている産業界等の有識者46名にご出席いただきました。

懇談会では、はじめに飯田弘之理事(学生・教育連携担当)・副学長から本学における最近の教育連携活動について、続いて上原隆平副学長から国際連携による研究の推進について、さらに、中田泰子未来創造イノベーション推進本部長補佐・地域イノベーション研究推進センター長から令和7年度の産学官連携活動について説明がありました。

また、インダストリアルアドバイザーである、

ケーイーエフ株式会社代表取締役伊与久義武氏より産業界と連携した博士人材育成制度による学生支援について、ならびにACADEMIC VISION合同会社代表社員越前屋俵太氏より本学への広報支援についてご紹介いただきました。

後半の意見交換会では、自由な懇談・意見交換の場を設け、参加者同士の交流を深めるとともに、本学の教育・研究ならびに産学連携について、率直な意見や要望を多数いただき、大変有意義な懇談会となりました。

2 JAIST東京フォーラムを開催



3月13日、本学東京サテライトにおいて、初となる「JAIST東京フォーラム」を開催しました。本フォーラムは、生成AIの急速な進展を背景に、人文学・社会科学の知とAIの融合による新たな価値創造と、AI時代に求められる人材育成のあり方を議論することを目的としています。当日は企業や大学関係者を中心に約50名が参加しました。

冒頭、寺野稔学長がAI人材不足への課題認識と産学連携の重要性を述べ、続いて文部科学省高等教育局の村尾崇国立大学法人支援課長より高度人材育成への期待が示されました。

講演では、デジタルハリウッド大学教授の橋本大也氏が最新AI技術の動向を、日立パワーソリューションズ執行役員の森脇紀彦氏が企業におけるAI活用の実践事例を紹介

しました。さらに、本学の上原隆平副学長(研究科改革担当)・先端科学技術研究科長より、人文学・社会科学系人材を対象とした新たなAI教育プログラムの構想が示されました。

後半のパネルディスカッションでは、本学の永田晃也副学長(社会人教育担当)をファシリテーターに、一般社団法人Japan Innovation Network代表理事の仙石太郎氏も交え、「企業が求めるAI人材像」や「産学連携の方向性」をテーマに活発な議論が行われました。

今後本学は、AI時代に対応した人材育成と価値創造に向け、産業界との連携を一層強化していきます。

3 創立35周年記念植樹式を挙りました



3月19日、本学は創立35周年を記念し、キャンパス内において記念植樹式を執り行いました。

記念樹には、「これまで携わってきた人々との絆を大切に、科学技術の継承とさらなる発展を祈念するとともに、ここにその思いが香りとともに届くように」との願いを込め、金木犀(キンモクセイ)が選ばれました。

当日は、学長、理事、監事、研究科長に加えて、経営協議会委員が出席し、寺野稔

学長の挨拶に続いて、出席者全員が順に土をかける「土かけの儀」を行い、節目の年とともに祝いました。

金木犀は、秋に芳しい香りの花を咲かせることから、今後も本学の歩みとともに成長し、キャンパスに集う皆さまに長く親しまれる存在となることを願っています。

4 JAIST-AAAS連携イベントを開催



5月18日、文部科学省記者会見室において、American Association for the Advancement of Science (AAAS、アメリカ科学振興協会)との連携イベント「信頼できる科学のネタをどう探し出すか?国際的な科学プレスリリース配信プラットフォームAAAS「EurekAlert!」の活用術」を開催しました。

本イベントは、科学報道において課題とされる「信頼できる情報源の確保」や「国内外の科学動向の把握」に対応することを目的に企画されたもので、記者・メディア関係者を中心に多くの参加者を迎え、実践的で活発な議論の場となりました。

はじめに、本学の寺野稔学長より開会挨拶を行い、小泉周理事(研究戦略担当)・副学長がモデレーターとして本イベントの趣旨と、科学情報の国際的流通の重要性について説明しました。

続いて、AAASより、EurekAlert!担当部長のBrian Lin氏、およびScience Magazine PublisherのBill Moran氏が登

壇し、EurekAlert!を用いた国内外プレスリリース検索等の活用や、国際的な科学情報流通の最前線、オープンアクセス政策が研究発信および報道環境に与える影響等について、京都大学のDavid Hajime Kornhauser氏の解説を交えて紹介がありました。

本イベントは参加者にとって実務に直結する有益な内容となるとともに、科学報道における現状と課題などについて多角的な意見交換が行われ、理解を深める機会となりました。

本学では、今後も国際的な連携を通じた科学情報発信の高度化と、メディアとの連携強化に取り組んでいきます。

5 産学連携学会第24回大会金沢大会を開催



6月18日、19日の2日間、ANAクラウンプラザホテル金沢および金沢商工会議所会館において、石川県で初めて「産学連携学会第24回大会金沢大会」を開催し、2日間で延べ600名を超える参加者を迎えました。本大会は、特定非営利活動法人産学連携学会の主催、本学未来創造イノベーション推進本部およびJAIST支援財団の共催のもとに開催しました。

同大会は、産学連携学の体系的な確立および産学官金連携のさらなる発展を通じて学術・技術の振興を図り、豊かで個性と活力に富んだ社会の構築に資することを目的としました。また、地域や分野を越えた連携の可能性を探求し、理論と実践の融合による新たな知見の創出と、持続可能な社会の実現に向けた共創の契機となることを目指しました。

初日は、『能登震災からの復興 ～産学連携やスタートアップの価値～』をテーマに、西垣淳子氏(前石川県副知事 現政策研究大学院特任教授兼金沢工業大学客員教授)による基調講演で幕を開けました。

その後、『「スタートアップ・エコシステム共創プログラムにおける地域のスタートアップ創出」～災害復興などの地域課題・社会

課題の解決とグローバルなスタートアップ創出への取り組み～』をテーマとしたシンポジウムを開催しました。同シンポジウムはTech Startup HOKURIKU(TeSH)とNINEJPの連携で開催されたもので、各プラットフォームの代表が集結し、各地域の課題やグローバル展開などについて議論を交わしました。

2日目は、産官学の多くの方々にお集まりいただき、オーガナイズドセッションおよび一般講演を実施しました。スタートアップや産学連携、人材育成などをテーマに発表や討論が行われ、各会場は多くの聴衆で賑わいました。

本学は今後も、産学連携やスタートアップ関連事業の推進に取り組むとともに、能登半島地震の復興に向けた取組を進めていきます。

JAIST PRESS TOPICS

最新の話題の中から、特にご注目いただきたいトピックスを厳選してご紹介します。



祝

北陸の地域と大学をつなぐ産学官金連携モデルを確立

— 中田准教授が文部科学大臣表彰 研究支援賞を受賞 —



中田准教授

4月7日、産学官連携推進センター副センター長で地域イノベーション推進センター長の中田 泰子(なかだ やすこ)准教授が、文部科学大臣表彰「研究支援賞(研究開発マネジメント部門)」を受賞することが発表され、4月15日に表彰されました。

本賞は、令和8年度に新設された文部科学大臣表彰の一つで、研究を生み出す仕組みや支援の高度化に貢献した人材(URA等)を対象としており、中田准教授の「**大学をハブとした地域イノベーション創出基盤の構築への貢献**」が評価されました。

中田准教授は、産学官金を横断的につなぐ共創の仕組みづくりに取り組み、URA(リサーチ・アドミニストレーター)を中心に**年間500社以上の企業を訪問して**、企業の課題やニーズを収集。その声と大学の研究シーズを結びつけることで、産学官金連携によるイノベーション創出基盤を構築してきました。

その中心となる取組が、**平成26年から継**

続的に開催している企業ニーズと大学シーズを結びつける産学官金連携マッチングイベント「Matching HUB」です。企業、大学、自治体、金融機関など多様な主体が交流する場を形成し、共同研究や新製品・新事業の創出につながる仕組みとして発展しています。

「Matching HUB」を核とした産学官金連携ネットワークは、北陸地域を超えて全国へと広がり産学官金連携モデルとして発展しています。能登半島地震後には、このネットワークを活用した復興支援にも取り組みました。



Matching HUBの様子

学長表彰も
行いました!



学長表彰での記念撮影

5月28日、今回の中田准教授の顕著な業績をたたえ、学長表彰授与式を開催し、寺野学長から中田准教授へ表彰状が授与されました。

※学長表彰は、本学の教育研究及び大学運営に功績のあった職員又は学生、並びに本学の発展に貢献した学外の個人及び団体等に学長から表彰状又は感謝状が授与されるものです。

地域の企業・大学・自治体をつなぐことで、研究成果が社会に届く仕組みを構築してきました。「Matching HUB」は、北陸地域にとどまらず全国に広がり、地域イノベーションを支えるモデルとして機能しています。本受賞は、産学連携部門をはじめ多くの関係者とともに取り組んできた成果であり、日頃から連携いただいている皆さまに感謝しています。この受賞を励みに、今後もこの仕組みをさらに深化させ、各地の課題解決や価値創造に貢献していきたいと考えています。





Winner introduction

Award Recipient Introduction

2026.1.14

The 2026 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII 2026)

SICE International Young Authors Award (SIYA)

ナノマテリアル・デバイス研究領域 HO研究室
博士後期課程3年 友水 豪志



2026.1.28

文部科学省マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM)
令和7年度秀でた利用成果

優秀賞

ナノマテリアルテクノロジーセンター
宮里 朗夫技術専門職員、四十万谷 智子研究員

技術支援貢献賞

ナノマテリアルテクノロジーセンター
宮里 朗夫技術専門職員



2026.2.17

空き家リノベーション
コンテスト2025

ベストプラクティス部門 優秀賞

トランスフォーマティブ知識経営研究領域
西村拓一研究室
博士後期課程2年 三ツ木 直樹



2026.3.2

映像表現・芸術科学
フォーラム2026

優秀発表賞

創造社会デザイン研究領域 宮田研究室
博士前期課程2年 近藤 耀、LIU, Xiangyu

CG-ARTS賞

創造社会デザイン研究領域 宮田研究室
博士前期課程2年 近藤 耀



2026.3.11

電子情報通信学会

第10回(2025年度)教育功労賞

松本 正 名誉教授



2026.3.25

電子情報通信学会・
情報処理学会・日本音響学会・
計測自動制御学会 各北陸支部

電子情報通信学会北陸支部 優秀学生賞

人間情報学研究領域 岡田研究室
博士前期課程2年 藤田 祐樹

電子情報通信学会北陸支部 学生優秀論文発表賞

次世代デジタル社会基盤研究領域 リム研究室
博士前期課程2年 崎間 寛哉

次世代デジタル社会基盤研究領域 井口研究室
博士前期課程1年 草原 士

情報処理学会北陸支部 優秀学生賞

創造社会デザイン研究領域 謝研究室
博士前期課程2年 宮内 竜一

情報処理学会北陸支部 優秀論文発表賞

次世代デジタル社会基盤研究領域 井口研究室
博士前期課程2年 谷口 稜、FENG, Mingyu

日本音響学会北陸支部 優秀学生賞

人間情報学研究領域 鵜木研究室
博士前期課程2年 牧野 哲平、松尾 洋杜

人間情報学研究領域 木谷研究室
博士前期課程2年 鈴木 雅子

計測自動制御学会北陸支部 優秀学生賞

人間情報学研究領域 池研究室
博士後期課程1年 財部 駿星



2026.5.20

12th International Conference on Rigorous
State Based Methods (ABZ 2026)

Best Paper Award

次世代デジタル社会基盤研究領域
青木 利晃 教授
RIVIERE Peter Bernard 特任助教



2026.6.2

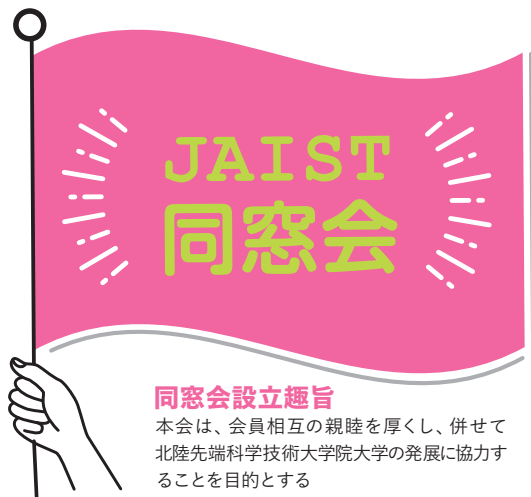
電子情報通信学会
リコンフィギャラブル
システム研究専門委員会 (RECONF)

研究会優秀講演賞(若手部門)

次世代デジタル社会基盤研究領域
高野 恵輔 助教

HotSPA 2026 研究発表会





同窓会設立趣旨

本会は、会員相互の親睦を厚くし、併せて北陸先端科学技術大学院大学の発展に協力することを目的とする



学生・教職員による
「JAISTフォトコンテスト2025」入賞作品より

主な活動

- ▶ **同窓会総会（東京サテライト）**
・活躍する修了生の講演・懇親会
- ▶ **修了生名簿の管理**
・同窓会Webにて随時入力更新可能
- ▶ **在学生への支援**
・学位記授与式時、博士後期課程修了生にアカデミックガウンを貸出
・修了生有志がキャリアメンターとして、就職・キャリア等について助言

同窓会への参加

- ▶ **同窓会Webに登録**
<https://www.alumni.jaist.ac.jp/>
アカウントやパスワードが分からない場合は、alumni@ml.jaist.ac.jp まで。
※大学及び同窓会からのお知らせは、同窓会Webに登録された「転送先メールアドレス」宛にお送りしますので、最新の情報へ更新をお願いします。
- ▶ **Facebookページ**
<https://www.facebook.com/JAIST同窓会-285261078263329/>
または <http://bit.ly/JAIST-alumni>



2026
3/22

令和7年度JAIST同窓会総会・講演会

本学東京サテライトにおいて、同窓会主催（本学後援）による同窓会総会・講演会が開催されました。

橋本昌嗣同窓会長の開会挨拶で幕を開け、この一年の活動を振り返るとともに、本学修了生の活躍ぶりが紹介されました。

続いて、寺野稔学長・永井由佳里理事・副学長、飯田弘之理事・副学長が登壇し、大学の近況紹介を行いました。Matching HUBやTech Startup HOKURIKU(TeSH)をはじめとする産学官金連携活動、研究力強化に向けた学内組織改革、産業界で活躍しうる博士人材の育成等の説明があり、また

修了生による日頃の支援に対し感謝の意が述べられました。

引き続き行われた講演会では、3名の修了生から、在学当時の思い出や現在の仕事に活かしている学びを交えつつ講演があり、会場は大いに盛り上がりしました。

当日は、オンライン参加も含め、修了生と本学教職員合わせて約70名が参加し、世代や専門分野を超えて親睦を深めました。



修了生による講演

1 情報科学修了生の講演

「IOWNで切り拓く光技術による量子情報科学の未来」

高杉 耕一 氏(NTT株式会社 未来ねっと研究所 主席研究員)
(1997年3月 情報科学研究科 博士前期課程修了、國藤研究室)

2 マテリアルサイエンス／材料科学修了生の講演

「知的たくましさと体験の重要性：インダストリーとアカデミアの狭間で」

和田 透 氏(北陸先端科学技術大学院大学 助教)
(2010年3月 マテリアルサイエンス研究科 博士後期課程修了、寺野研究室)

3 知識科学修了生の講演

「JAISTでの知識創造研究を活かした現在の研究・教育について」

吉永 崇史 氏(横浜市立大学 国際マネジメント研究科 教授)
(2007年9月 知識科学研究科 博士後期課程修了、遠山研究室)

VOICE OF ALUMNI 活躍する修了生

知 識科学での学びは、学際研究の素養を培い、現在の研究・教育活動の礎となっています。現在は熊本県立大学総合管理学部総合管理学科情報専攻の教授として、専門である感性情報学を基盤に、地域実践型の研究や教育に取り組んでいます。メディア・アートを活用した地域づくりや文化資源の価値創出など、感性と情報技術を融合したアプローチを通して地域課題の解決を目指しています。

JAISTでは、多様な専門性を持つ教員や学生との交流に加え、フランス、カナダ、オーストラリアへの研究留学など、入学前には想像していなかった数多くの経験を積むことができました。研究生活は決して平坦ではありませんでしたが、自分自身の知識や考え方の深さと広がりを実感できた貴重な時間でした。研究に対する着想力、チャレンジ精神、そして最後までやり遂げる力は、JAISTの自由で学際的な研究環境の中で育まれたものであり、現在も研究者として活動する原動力となっています。

特に、5Dプログラム(5年一貫的教育制度)で過ごした日々は、私にとって大きな財

産です。研究室では友人や先輩・後輩と互いに刺激を受けながら切磋琢磨し、多様なバックグラウンドを持つ仲間との交流を通して、研究だけでなく人生観にも大きな影響を受けました。こうした経験は、学際的な視点で地域課題に向き合う現在の研究活動にも生きています。

現在の目標は、日本発の地域研究をグローバルな先端研究へと発展させることです。地域には文化的・資金的・組織的な制約の中で解決すべき課題が数多くありますが、そこから得られる知見には世界にも通じる普遍性があると考えています。JAISTは最先端の研究設備だけでなく、多様な専門分野の研究者が集い、新たな学際領域を創発する「場」として大きな魅力を持っています。今後も日本を代表する研究大学として、新しいディシプリンを切り拓いていくこ

石橋 賢 ISHIBASHI Ken

知識科学研究科
博士前期課程2011年修了
博士後期課程2014年修了

公立大学法人 熊本県立大学 総合管理学部
総合管理学科 情報専攻 教授

とを期待しています。

現在、令和8年熊本地震により熊本県内では甚大な被害が発生しており、私自身も地域の大学教員として、研究・教育活動と並行しながら被災地の支援や復旧・復興活動に携わっています。長期化する避難所生活や地域コミュニティの再建には、現地だけの力では限界があります。本誌をご覧の皆様におかれましても、被災地への継続的なご支援、ご協力を賜れますと幸いです。



VOICE
OF
ALUMNI 1

こ のたび、ヤンゴン情報技術大学(UIT)の学長を退任し、これまで歩んできた道のりを振り返ると、JAISTで過ごした日々が、私の歩みを大きく形づくってきたことを感じています。

JAISTの情報科学研究科で博士号を取得した後、ミャンマーに戻り、複数のコンピュータ大学で高等教育に携わりました。その後の5年間は目まぐるしく過ぎていき、教授、副学長を経て、UITの学長を務めました。JAISTで身につけた確かな学術的基盤と大学組織に関する知見は、こうした立場で大学を率いる上で大きな支えとなりました。

JAISTでの経験を礎に、日本、シンガポール、韓国、タイ、ベトナム、マレーシア、インド、ロシアにわたる幅広い国際的な学術ネットワークを築くことができました。また、こうした協力の精神を大切にしながら、国内外のテクノロジー企業と連携し、学部学生が大学での学びを産業界につなげられるよう、充実したインターンシッププログラムの構築にも取り組みました。

学問だけでなく、日本で過ごした日々も、私の人生に忘れられない思い出を残してくれました。留学生旅行に参加したこと、日

本語の先生のご自宅でクラスメートと一緒にパン作りを教わったこと、「JAPAN TENT」でホストファミリーのご家庭に滞在したことなどは、18年経った今でも鮮明に覚えています。その中でも私が何より好きだったさやかな楽しみは、JAISTの図書館で静かに本を読んで過ごす時間でした。

これまで私が自分の専門分野や社会に少しでも貢献することができたとすれば、その原点にはJAISTで学ぶ機会を得たことがあります。大学を率いる立場にあった間、次の世代の学生たちにも、私自身が得たような、人生を大きく変える機会を得てほしいと考え、海外の大学との強い関係づくりに努めてきました。

JAISTで得たものは、博士号だけではありません。社会に貢献していくための力と視野も与えてくれました。これからもJAISTが、特に開発途上国からの学生も含め、十分な教育を受けたリーダーを育て続け、その素晴らしい国際的な評価をさらに高めていくことを願っています。

※英文による寄稿を広報・学生獲得推進室で翻訳

ソウ サンダ エイ

Saw Sanda Aye

情報科学研究科
博士後期課程2008年修了

ヤンゴン情報技術大学
(University of Information Technology (UIT))
前学長



VOICE
OF
ALUMNI 2

令和9年4月

社会人コース(北陸)開設

北陸の創造都市で学ぶ 先端科学技術のイノベーション

北陸近郊で働きながら

先端科学技術の修士号や博士号を取得する

この他にも、JAISTでは働きながら修士や博士の学位の取得を目指す意欲ある社会人向けに、「社会人コース(東京)」、「産学官連携社会人コース」を設けています。

説明会を随時開催しております。



JAIST基金

JAIST基金へのご協力、 心より御礼申し上げます。



本学は、2010年4月に、本学における教育研究を充実・発展させることを目的とした「JAIST基金」を創設しております。

JAIST基金には、教育研究及び学生の修学への支援を一層充実させるため、「教育研究支援基金」と「修学支援基金」という2つの種別の基金を設けており、寄附を受け入れております。

「教育研究支援基金」は、教育研究推進、社会貢献、国際交流等の事業に、「修学支援基金」は、経済的理由により修学が困難な学生を支援する事業に活用させていただきます。

JAIST 基金への寄附の申し込み方法

インターネット決済(クレジットカード、コンビニ、Pay-easy)や、銀行振込、現金でのご寄附はこちらから承ります。



JAIST 古本募金

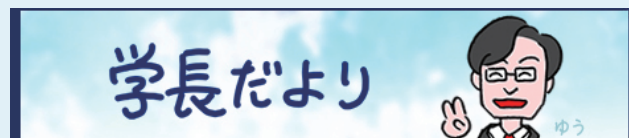
Used Book Donations of JAIST



古本募金のご寄附は、「教育研究支援基金」として活用いたします。ご自宅まで宅配業者が集荷に伺います。専用フォームからお申し込みください。



ウェブサイト「学長だより」を開設しています



寺野稔学長が、JAISTに関連した重要なトピックスを取り上げ、大学の活動や成果が学内外から見えるように、「学長だより」として皆様に発信しています。学長からのメッセージを、ぜひご一読ください。



JAIST変人ラジオ

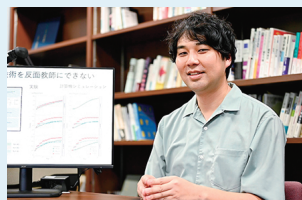
越前屋俵太氏をナビゲーターに迎え、本学で研究に取り組む個性豊かな研究者たちの研究内容や人柄に焦点を当てた音声コンテンツ「JAIST変人ラジオ」を制作・配信しています。「変人」とは“時代を変えていく人”を意味しており、研究の最前線に立つ教員の思いや視点を、真面目ながらも軽やかな語り口でお届けするアカデミックなラジオ番組



です。2024年8月には、寺野稔学長をはじめとする12名の教員によるトークを配信し、多様で創造的な本学の魅力を広く発信しました。



教員インタビュー「この人に聞く」で 最先端の研究にフォーカスします!



ウェブサイト「この人に聞く」では、様々な分野の教員にインタビューを行い、最先端の研究内容や学生に向けたメッセージを、写真や動画とともに紹介しています。



「インタビュー特設サイト」 JAISTとあなたの未来を創造(想像)していくメディア



研究室の魅力と在学生のホンネを綴ったサイトを公開中です。



北陸先端科学技術大学院大学広報誌

JAIST NOW No.25

2026年9月発行

広報・学生獲得推進室から

今号も、研究成果や受賞、修了生の活躍など、JAISTから生まれたさまざまな話題をお届けしました。一つひとつの記事から、研究に取り組む人々の思いや、世界へと広がるJAISTのつながりを感じていただければ幸いです。これからも、本学の「今」を皆さまにお伝えしていきます。

発行

北陸先端科学技術大学院大学
広報・学生獲得推進室

〒923-1292 石川県能美市旭台1-1

TEL 0761-51-1031 E-mail kouhou@ml.jaist.ac.jp



JAIST



※本誌に掲載している方の身分及び学年は、
取材時または受賞時のものです。